

凧 あ げ

○

東京女高師附屬幼稚園保母

池 田 こ よ

「先生おはやうございます」

「入らつしやい、おはやうございます」

厚い外套にくるまつた、いゝ顔色をしたおかつばさんが、茶色の手袋をはめた小さい手に、お辨當を提げて、幼稚園のお部屋へ這入つて來ました。何と云ふ爽やかな、生々した氣持でせう。

「先生、それどうなさるの？」

「これですか、これはねえ、皆さんに凧を作つて上げませうと思つて」

「私たち、みんなに作つて下さるの？」

「えゝ、皆さんに拵つて上げますよ」

「いつ拵つて下さるの？」

「あさつてね、それ迄に乾くやうに繪だけ畫いて置ませう」

「それ、お日様でせう」

「えゝ、そうですよ」

先生は赤と青の繪具を澤山にといて、刷毛で「日の

出の海」を一生懸命に畫いてゐます。おかつばさんは傍で見えてゐます。あとからあとから續々と、他の子供が來ます。同じ問答が幾度も繰り返されて、兎に角、凧を作つて頂くのだと云ふ樂みを懷きながら皆庭に出て遊びました。先生は、三十枚ほど繪を畫いて、机の上に並べて、乾かせました。

子供は、あさつてを待ちかね顔に、行きかへりに並べてある凧の繪を見ました。

愈々其あさつてになりました。朝、子供は、面白い凧のお話を聞きました。自分も廣い／＼野原で、一生懸命に凧を揚げてゐる様な氣がした時、お話は終りました。そのあとが、いよ／＼、ほんものゝ凧であります。

凧を作る材料は、すつかり子供の前に並べられました。例の「日の出の海」と、籤ひしと、糸いとと、尾おびに用ゆる赤と緑の細い色紙と、絲卷いとまきに用ゐる小さいボール紙と。

先生は凧屋さんになりました。忙はしくて、口を

きく所ちやありません。無言の行で、せつせ〜と
風を作り始めました。切つたり、折つたり、貼つた
り、引つ張つたり、糸目をつけたり、尾をつけたり
大變です。今度は自分のを作つて頂けるかと、皆の
子供が丸い眼を見張つて待つ可愛らしさ。先生は急
がずには居られません。一つ、二つ、三つ、だんだ
んと風が出来上りました。頂いた人のよろこび。も
うぢつとしては居られません。手のあいた先生と一
緒にお部屋をどび出しました。生憎の雪解けで、庭
へは出られません。行く筈であつた、向ふの廣い乾
いた庭へ行かうには、今日は土曜日で、もうお歸り
の時間が迫つて居るので、其ひまがありません、と
う〜遊戯室で揚げました。揚る〜實によく揚る
誰のも、彼のもよく揚ります、氣持のよい程軽く、
素直に揚ります。揚げ手は、だん〜と殖えて來ま
す。赤と緑の尾を曳いた可愛らしい風は、小さい、
丸い手に引かれて、フワ〜と、恰度泳いで行く様
です。何と云ふ可愛らしい光景でせう。いつまで揚
げても際限がありません、そう〜長くお迎へを待
たせるのも氣の毒であります。風は先生が預つて、
又あさつてを約しながら子供は歸つて行きました。

それからは、毎日々々風揚げで、夢中です、幼稚
園の庭で揚げる事もありますが、大抵は本校の廣い
日當りのよい庭まで出かけます。晴れきつた大空の
下で、小さい人達が小さい風を引つ張つて一生懸命
に駆けて居ます、冷たい冬の風は心地よげに、林檎
の様な其丸い頬を撫で、行きます、軟かい、悦びに
満ちた聲は、ここかしこに賑つてをります。何と云
ふ無邪氣な事でせう。

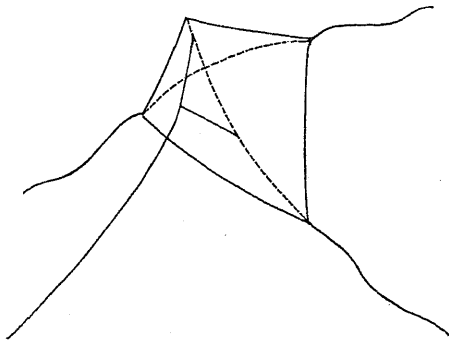
こんなにして風は毎日々々子供のお友達になりま
したので、だん〜と、くたびれて骨が折れたり、
尾が取れたり、中にはベツチャンコになつたのもあ
りました。しかし先生に骨接や、膏藥貼をして頂く
ので、まだ〜毎日元氣よく楽しい遊のお仲間とな
つてをります。

* * *

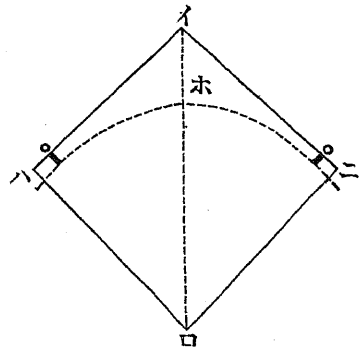
此風は私の先生から教へて頂いたもので、其作り方は極めて簡單
であります。もうとつくに御存知とは思ひますが序を以て一寸記し
て見ませう。

一、材料Ⅱ半紙一枚 籾(豆細工等に用ぬます細い竹)、色紙三筋
(尾に用ぬますもので、其内の二本は他の一本よりも少し短
かくします)、木綿縫糸(風の糸目及揚げる時の緒とします)。

一、作り方Ⅱ先づ左圖の如く半紙を眞四角に切りませう。



出
來
上
り



次に(ハ)、(ニ)の○印の所を四分か五分位切り込みます。

次に風を裏返しにしてい、(イ)(ロ)及(ハ)(ニ)に點線の如く箆を渡します、但(ハ)及(ニ)の端は箆を紙よりも二三分長くしておきます。

次に(ハ)及(ニ)の初めに切り込んだ紙を箆の上に折り返して糊付にし、(ハ)及(ニ)の二ヶ所で箆をしっかりと留めます。(イ)(ロ)(ホ)にも各の上から別の小さい箆を糊付にして此二本の箆を動かかない様になります。

次には風を表から糸目をつけます、即七、八寸位の長さの糸の兩端を、(イ)(ホ)の中央及(ホ)(ロ)の中央位の二ヶ所で箆に結びつけま

す、そして其弛んだ糸の上から三分の一餘りの所で小さい環を作るやうに其糸を結びます。其結んだ環へ長い糸を一本つなぎ其一方の端を絲巻に結びつけます。

次に風の裏から(ハ)及(ニ)の箆の端に一本の糸を結び付け其れをピンと引つ張つて風を張をつけます。

最後に(ハ)及(ニ)に短い方の二本の尾を一本づゝ付け(ロ)に長い方の一本の尾を付けます。之ですつかり出来上ります。

一、揚げ方と其時の注意―揚げます時には、糸を持つた手を伸ばし少し駆けます。糸を無闇に引きしやくりまずと却て揚りません。

それから子供は自分の後ろに揚つて居る風を見たまに駆けながらちよいと後を見ますから其場所に障礙物があつてはなりません。これはよほど注意を要します。又大勢の子供が同時に揚げます時には其駆け行く方向を一定して置く方が安全であります。

風よ吹け、風々あがれ、

あがれ、風々天までとっけ、

糸がカラスビいるなら、いくらもやるぞ！

空に見ゆるか鳥か鷹か、

あれにまけずに、風々あがれ、

力がなければ加勢に行くぞ！